

K-ART < 8月 光の透かし絵「カレー」「宇宙」 >



やさしい K-ART

2025 第8月のテーマ《光の透かし絵ワーク》

「光の透かし絵」2種類に挑戦！
カレーの作り方をイメージしながら作る作品、
宇宙を学びながら作る作品の2つを作ります。

<テーマを決める>

「光の透かし絵」は、切り絵のような仕上がりになる作品です。
今回は、夏休みで出席が不規則になる可能性があるため、単発プログラムの
「光の透かし絵」を2種類実施します。
「食」と「宇宙」について、掘り下げてみようと思います。

<問いを考える>

「家で食べるカレーはどんな野菜や肉が入っていますか？」
「形は残っている方が美味しい？よく煮て溶けたものの方が美味しいかな？」
「好き嫌いはなく食べているかな？」

※**食育的なアプローチで、いつもの自分を見つめ直す機会にします。**

「宇宙ってどうなっているのかな？」
「みんなが住んでいるこの地球は太陽系の中のどの辺りにある？」
「地球は大きな星なのかな？それとも小さな星なのかな？」
「もっと小さい星を描きたいけど、どうやったら良いと思う？」

※**スパッタリングという技法を用いて星を散りばめます。**

<環境をデザインする>

今回は、光をテーマにしてみました。
塗り絵のように自由に塗っても、上から切り絵のように
黒いシートをかぶせることでとても素敵な作品ができます。
また、いつもの紙など不透明なものに塗るのではなく、
透明なシートに塗ることによって光が透けて、いつもとは
違う色の見え方ができるようになります。

最後に、このように光で色を透かすものとしては、
どのようなものがあるか、どういうものがあるかと素敵か
など、考えていきたいと思います。

1. フレーム
2. 光の透かし絵 (1)
3. 光の透かし絵 (2)
4. クリアシート
5. キットパス、
6. ベビーパウダー
7. アクリル絵の具
8. 歯ブラシ





< 探究活動を実践し、記録する >

8/6 (4 歳児)

本日は夏休みでお休みも多い中、実習の学生も一緒に参加をしてくれました。同じ席の子どもたちは、キットパスの使い方や成分など先生から教えてもらって学んだことを教えていました。

CURRYの文字、ご飯、カレー、湯気、お皿、スプーン、福神漬けとらっきょうなど、構成要素はいろいろとあるので、それぞれの要素をどのように色付けるか、素材としてどんなものを入れるか、考えながら集中して取り組んでいたと思います。

自分が作った作品に名前をつけることで、より一層所有感も出て大満足のカレーが完成していたと思います。





< 探究活動を実践し、記録する >

8/6 (5歳児)

年長さんは、オムカレー、鬼滅カレー、先生の見本をお手本とする模写カレーなどいろいろいるとバリエーション豊富でした。このプログラムの大きな目的は「こどもの自己肯定感を高める」ことにあるので、「何が良い」「何が悪い」ということは基本的にはありません。子どもたちのそれぞれ良いと思うことを進めて、自分も達成感があり、納得ができる作品になって、保護者の方々にほめてもらうということを繰り返すことで自己肯定感が高まります。それぞれのレベル感、考え、スキルで進めていっても、最後は本人が納得ができる、満足できる作品になるということを大事にしています。

パッと見は「カレー」ですが、それぞれ思いと考えが入っている素敵な作品が完成したと思います。



<探究活動を実践し、記録する>

8/20 (4 歳児)

本日は「宇宙」がテーマだったので、太陽系や惑星のことを少し勉強しました。

宇宙が好きなのは、惑星の色にこだわを持ち作品を作っていたり、自分の好きな色で惑星を色付けていたり、前回カラーを作った子は迷いなくどんどん進めていました。

黒いカバーをひっくり返して、作品がパキッとなった状態を見たらニコニコしながら嬉しそうにきれい〜と満足そうでした。

最後に、「カラー」と「宇宙」のどちらが好きな方をクリアフレームに入れることを伝えて、選んでももらいましたが、7：6でカラーの方がギリギリ多かったです。

K-ART < 8月 光の透かし絵「宇宙」 > 実施報告 アンジェリカ亀戸保育園



< 探究活動を実践し、記録する >

8/20 (5歳児)

年長さんは、文字、太陽、各種惑星という要素をひとつひとつをこうしたいという思いをのせて塗っている様子でした。

保育園の中では、ルールやこうしなければならぬということが多いところとあると思いますが、アートの場合はこうしななければならぬということとはほとんどないと考えています。

自分で考えて作りたいたい子、真似をしながら少しずつ自分で作りたい色、模様、塗り方などを見出していく子、いろいろなタイプがいて良いと思います。

歌舞伎の世界では、「型破り」と「形無し」という言葉があります。「型破り」は、型を徹底的に真似て型を自分のものにしてからオリジナル리티を加えて変えるということ、「形無し」は最初から型もはっきりと学ばずに独自で何かをするということ、軸がないことを意味します。真似ることから型を学び、徐々にオリジナルティを出すことで少し時間がかかる子もいると思いますが、その子のやり方を見守ってあげていただければと思います。

K-ARTは、どんなプロセスを踏んでも、本人が満足・納得できる作品が作れるように仕掛けをしていますのでご安心ください。